

# 終戦目前 幻の首都突貫道路



## 新 聞 毎 日

夕刊

12月3日(土)

2022年(令和4年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号  
〒530-8251 電話(06)6345-1551

毎日新聞大阪本社

空襲警報が鳴っても作業を続けよ。太平洋戦争末期の1945年夏、本土決戦に備えた旧陸軍は、首都圏沿岸部に上陸する米軍を迎え撃つべく、戦車部隊を上陸地へ急行させる道路整備を進めた。「富士」リ号演習と名付けられた、終戦間際の首都圏幹線道路整備計画。民間人も動員されたが、空襲警報が発令されても中断させないと定める過酷な作業だった。研究に取り組む郷土史家は「従事した人の生の声を集めたい」と証言を求めている。



古橋研一さん

### 米軍迎撃 富士「リ」号演習 郷土史家「証言を」

東京都調布市の古橋研一さん(76)は今春、友人から演習に関する多摩地域の図版が現存するとの情報を得て、防衛省防衛研究所戦史研究センター(東京)を訪問。図版を含む資料8冊が保存されているのを知り、研究を始めた。

古橋さんによると、「富士」リ号演習は45年5月に基本方針である「大綱領」が決まった。相模湾沿岸(神奈川県)や九十九里浜(千葉県)に米軍が上陸したと同時に、埼玉県に基地に配備された戦車と人員を急行させるための道路整備。既存道路の拡幅や路盤強化、爆撃による橋の破壊を想定した仮橋材の準備が主な内容で、期間は8月末まで。複数のルートで計画された。

45年7月に田無町(現・西東京市)や調布町(現・調布市)などの国民学校原簿を動員した記録が残されていたが、作業内容の記載はなかった。多摩地域の地図には田無町から調布町までのルートが記され、タイトルは「第二作業隊 作業隊進捗表」。8枚の紙に手書きされ、爆撃による穴を埋める砂利の隠場所なども記載されていた。

戦車の通行には、既存道路の路盤に木くいを打って補強し、道幅を6分に拡幅する作業が必要とされた。「用地を地主から借り上げる際に町村長らに仲介をさせた。円満に作業を進めた陸軍の意向がうかがえる(古橋さん)という。

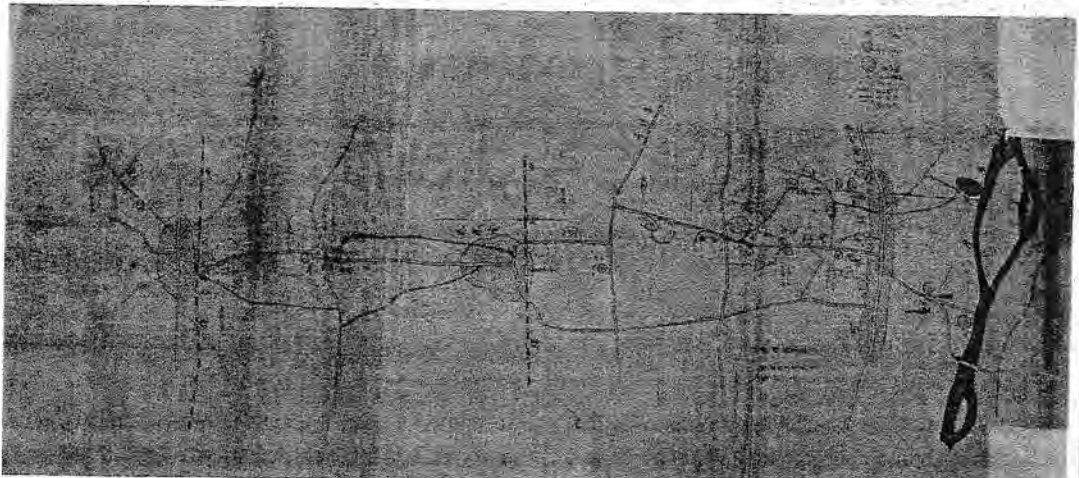
古橋さんはこれまで十数回、

埼玉、東京、神奈川の3都県で工事の痕跡を探したが、見つからなかった。

第二作業隊の「作業計画」には「作業(空襲警報下)に於て実施スル本則トス」と記されていた。実際に作業に動員された兵士や民間人に空襲被害があったかは分かっていない。

研究成果をいずれ冊子にまとめるつもりだが、従事した人の証言をまだ得られていない。国民学校高学年だった人は現在約90歳。古橋さんは「冊子には生の声は必須。父母や祖父母から聞いたことがあるという証言でも集めたい」と意気込む。情報提供は古橋さん(042・483・3463)へ。

【佐藤浩、写真も】



東京都田無町(現・西東京市)から調布町(現・調布市)までの道路を記した地図「第二作業隊 作業隊進捗表」のページ1。原図は縦103センチ、横46センチだった